

2023 年 8 月 9 日

Green Earth Institute 株式会社

純国産 SAF（持続可能な航空燃料）用原料の 国際規格登録・認証取得に向けた本格的な取組みを開始

Green Earth Institute 株式会社（以下「GEI」）は、日本製紙株式会社（以下「日本製紙」）と住友商事株式会社（以下「住友商事」）とともに、「SAF の導入促進に向けた官民協議会」の SAF 流通ワーキンググループの SAF 認証タスクグループ^{※1}において、木質原料（主伐材、残渣・廃棄物）の CORSIA 適格燃料（CEF）^{※2}としての登録・認証を目指す「パイロット事業者」に選定されました。

GEI は、日本製紙、住友商事とともに、日本製紙の工場内で、年産数万キロリットルの国産材由来のバイオエタノールを 2027 年度に製造開始することを目指し、検討しています。製造されるバイオエタノールは、国産材の利活用や脱炭素社会への寄与を考慮して、国産 SAF 等の原料としての利用を目指しています。新たな原料を用い、SAF として使われるためには、国際航空民間機関（ICAO）が定めた CEF としての登録・認証を得ることが必要です。

今回、3社が上記検討中の木質バイオマス由来のバイオエタノールから作られる SAF が、CEF としての認証を得られるように、経済産業省資源エネルギー庁及び国土交通省が事務局を務める「SAF の導入促進に向けた官民協議会」の中の SAF 認証タスクグループで選定された、木質原料（主伐材、残渣・廃棄物）の SAF 原料としての登録を進める「パイロット事業者」として、国土交通省航空局の支援を得ながら、CEF としての登録・認証に向けた作業を進めることになりました。

GEI は、日本製紙、住友商事とともに、パイロット事業者として、木質バイオマス由来のバイオエタノールの CEF としての登録・認証に向けた作業に取り組むことにより、国産材を活用した、国内初の純国産セルロース系バイオエタノール商業プラントで生産されるバイオエタノールの SAF 原料としての利用を目指します。

- ※1 持続可能な航空燃料（SAF）の導入促進に向けた官民協議会は、SAF の導入を加速させるため、技術的・経済的な課題や解決策を官民で協議し、一体となって取組を進める場として、2022 年 4 月に設立されている。当該官民協議会の下に、SAF 製造・供給ワーキンググループと SAF 流通ワーキンググループがあり、さらに、SAF 流通ワーキンググループの下に、国産 SAF の CORSIA 適格燃料登録・認証に関する取組を進めるための SAF 認証タスクグループが設置されている。
- ※2 ICAO（国際民間航空機関）において、GHG 削減効果のある SAF として認められるためには「CORSIA 適格燃料(CEF)」として登録・認証を得る必要がある。CORSIA とは、ICAO が定めた「国際民間航空のためのカーボン・オフセット及び削減スキーム」である。

以上